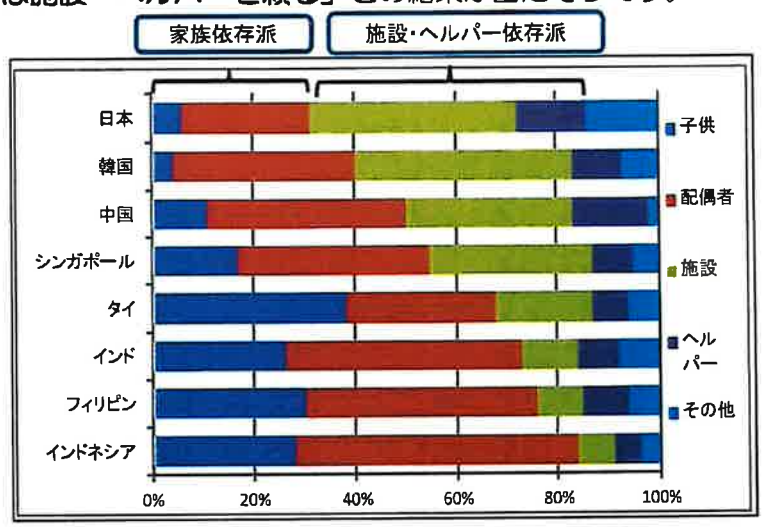
向陽介護便り

平成26年3月　第95号
発行人:㈲向陽介護システムズ
新宿区東五軒町1－12　青木ビル
TEL　03-3267-2015

介護と移民問題

先日　面白い新聞記事を目にしました。米国の調査会社ニールセンがアジアの１３カ国・地域で行った「高齢者になった時、どういう生活形態になると思うか？」との調査で**「東南アジアは家族を頼り、東アジア（日本・韓国・中国）は施設・ヘルパーを頼る」**との結果が出たそうです。

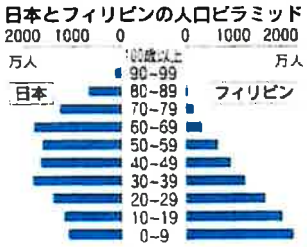


子供に頼る（同居）割合が最も高かったのはタイで38%、親の面倒を見るのは子供の務めという意識がタイ人には根強く、インドネシアも29%と高水準。インドネシアでは配偶者を含め家族を頼りにする比率は85%となっています。一方家族をあてにできないのが、日本・韓国・中国の３カ国。子供に頼ると答えたのが、韓国4%、日本6%。

儒教の教えも少子高齢化の前には,為す術が無いようです。

高齢者向け施設やヘルパーを利用したいという人の割合が日本や韓国、中国では50%を超えています。でも施設やヘルパーを当てにできるのでしょうか？私には、介護の仕事についてくれる人がどんどん少なくなっている実感があります。訪問介護だけでなく、施設経営者の話を聞いても、いつも「人がいない、いない」の合唱です。訪問介護のサービスを提供したくともヘルパーがいなくて対応できない。施設でも建物が出来、ベッドは空いているのに介護スタッフが集まらないから入居させられないということが既に起きています。

日本政府は、最近、少子高齢化に伴って減少する労働人口の穴埋め策として移民の大量受入の本格的な検討に入ったとの新聞報道もありました。建築現場も人手不足から、震災の復興も遅々として進まず、2020年の東京オリンピック施設整備に向けて不安視する意見も聞こえてきます。



日本がこれだけ人手不足で苦しんでいる一方で国内に仕事が無く、日本に強い憧れを抱いている隣国も存在します。

付け焼刃的な政策ではなく、お互いがＷＩＮ－ＷＩＮの関係で長続きする関係が構築できる事を望んでいます。フィリピン人介護士や看護士がもっと自由に来日でき働ける日を目指し、**再びフィリピンへ！**

新小学校計画の前で(知人)

↑新しい校舎の完成を待つ小学生
建設中の校舎↓